

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 12 月 28 日

【評価実施概要】

事業所番号	3870501289		
法人名	有限会社ミキハウス		
事業所名	グループホームしおさい		
所在地	愛媛県新居浜市阿島1-7-27 (電話) 0897-46-4050		
管理者	加藤 博		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 19 年 11 月 9 日	評価確定日	平成 20 年 1 月 4 日

【情報提供票より】 (平成 19 年 10 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 11 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 15 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 5.7 人	

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有()円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,200 円	

(3) 利用者の概要 (平成 19 年 10 月 1 日事業所記入)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護 1	4 名	要介護 2	1 名
要介護 3	11 名	要介護 4	2 名
要介護 5	名	要支援 2	名
年齢	平均 85.1 歳	最低 79 歳	最高 95 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設4年目を迎えた2ユニットのホームは南向きで日当たりが良く、清潔感がある平屋の建物である。秋祭りには太鼓台が来て利用者を楽しませてくれる。ホーム内は利用者や職員の会話と笑い声が聞かれる明るい雰囲気である。看護師を4名配置し、医療体制も充実している。組織面では法人代表、管理者、ユニット長、職員各人の役割と責任が明確にされており、おのおのの仕事に専念できる。それぞれの職員間のコミュニケーションも良好で、業務をスムーズに行える環境にある。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)

前回の改善課題を職員会で全員で検討し、優先順位をつけ、具体的方法を見つけ出して改善に取り組んでいる。介護計画作成時のアセスメントシートを作成し、活用している。申し送りは業務日誌と申し送り簿の両方を使って確実にっており、職員はサインか押印で確認している。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)

各ユニットのリーダーが大まかに作成し、職員の意見を個別に聞き作成している。今回評価は次回の運営推進会議で報告する予定である。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)

運営推進会議には町内会長、民生委員、市担当者、利用者家族が参加している。議題は現状報告や地域の情報交換のほか、ホームが一地域住民として取り組んでいきたいことを提案し、町内会長や市からのアドバイスをもとに、より具体化する場となっている。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)

近隣から入居している利用者が多く、家族の面会が多い。苦情箱を設けているが、ほとんどの家族は訪問時や電話で職員に直接伝えている。家族会が年2回あり、会食やクリスマス会などの行事も兼ねて開催され、家族同士の交流も行われている。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)

自治会に所属し、神社の宮司である町内会長や、ボランティアで絵手紙の講師をしている民生委員などから地域の情報を得ている。職員の一人が今年町内会役員をしており、町内会議の情報を持ち帰り、活用している。近くに民家はないが、コンビニや福祉施設へよく出かけ、顔なじみになっている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホームしおさい

(ユニット名) ユニット1

記入者(管理者)
氏名 加藤 博

評価完了日 平成 19 年 10 月 1 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) しおさいが目指すサービスのあり方について職員間で話し合い、独自の理念を作り上げている	※	地域との関係は十分にできているが、さらなる取り組みのため、地域とのつながりを明文化し、職員一人ひとりに意識づけすることを期待する。
			(外部評価) 利用者のほとんどが近隣の方であり、地域とのつながりは深い。管理者は「利用者もホームも地域の一員」との意識が強く、行事参加だけでなく日常的な交流にも努め、職員も実行している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 理念は、ホーム内に掲示しており職員会議等で常に確認し、日々のサービス提供時心がけている		
			(外部評価) 職員全員で作った「その人らしくゆっくりゆったり安心した生活を送る、笑顔で過ごせる生活を送る」という理念をもとに、日々会話と笑顔の絶えないホームにしたいとの職員の想いが強い。利用者の笑い声と、緩やかな一日の行動のリズムがホーム全体の暖かい雰囲気を作っている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 家族には、面会時や家族会等で説明を行っている		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 日常的に散歩等の外出の機会を作り、地域との交流に努めている		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 自治会や地域行事（文化祭等）にも参加し、地域との交流に努めている (外部評価) 自治会に所属して地域活動の情報を収集し、積極的に参加している。隣接の福祉施設の研修生を受け入れ、地元ボランティアの方にお手玉の作り方や昔遊びを教えていただいたり、会話を楽しみながら地域の人々との交流を図っている。		
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 人材育成の貢献として、実習生の受け入れを積極的にやっている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 外部評価の結果は、全体スタッフ会で報告し、改善に向けて全職員で検討している (外部評価) 管理者は評価の意義を理解し、職員に説明してから自己評価を行っている。前回評価の結果を職員会議で議題に取り上げている。改善方法を検討し、優先順位をつけて実施している。評価結果は運営推進会議で報告する予定である。	※	職員全員で話し合った具体的な解決方法や成果などを記録する「評価改善シート」を作成し、評価をホームの成長の過程として新しい目標づくりに役立てることを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、民生委員・自治会長・介護福祉課職員・家族会会長などできるだけ多くの方に参加していただき、そこでの意見を日頃のサービス向上に活かしている (外部評価) 運営推進会議では利用者の様子や行事報告、職員の研修受講の報告などを行い、市担当者からは高齢者福祉の現状説明等をいただいている。家族からも質問や意見が出され、参加者全員でホームを支える話し合いができています。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 困難事例や検討事項など、介護保険更新時伺った際に相談や助言を頂いている (外部評価) 市担当課に運営推進会議以外でも相談に応じてもらえる。管理者は利用者と共に窓口を訪れ、ホームの現状を説明し、理解を得る努力をしている。公民館主催の介護教室の食事会には職員が利用者と共に出席している。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者は成年後見制度の研修に参加し知識を深めるとともに、職員に対してもスタッフ会などで勉強会を行うなど制度の周知を図っている		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 管理者は高齢者虐待防止法に関する研修に参加し、理解しているが事業所内で虐待が行われるケースは想定していない		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、料金等に始まり、ケアについての考え方や退居を含めた当事行所の対応可能な範囲についても説明を行っている		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 各利用者に担当職員をつけ特に担当職員は利用者の言葉や態度から不満を感じ取る努力をしている		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 家族面会時には、職員が近況報告を行うと共に、介護計画などサインをいただいている (外部評価) 「ホーム便り」を年4回作成している。視点を変えるために作成担当メンバーを変えるなど工夫している。金銭出納帳のコピーや介護計画書も便りとあわせて家族へ郵送したり面会時に手渡して確実に届けている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会を設け、意見や不満など頂くようにしている (外部評価) 家族会を年2回イベントと同時に行い、家族同士でも意見交換が行えるようにしている。苦情箱も設けられているが、家族からの要望は面会時に伝えてもらうことが多い。管理者は悪い情報ほど早く耳に入れるよう職員に伝えている。ホーム内行事は利用者、家族に好評だったものを継続して行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 運営者や管理者は、職員が意見を言いやすい環境づくりを常に心がけている		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 利用者の生活リズムに合わせたローテーションを組んでいる		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 各ユニット職員は、原則固定化し、馴染みの職員から支援を受けられるようにしている (外部評価) 職員が異動になった場合、可能であれば1か月は新・旧の職員が重複して勤務している。そうでない場合は管理者が利用者の担当として勤務するなど、利用者、職員共にスムーズに馴染めるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 各職員レベルに合った研修に参加している。またスタッフ会で研修報告を行う機会を作っている (外部評価) 管理者は職員のケアの質の向上や情報交換には研修が重要であると考えており、研修受講や資格取得に協力的である。職員は業務として研修に参加し、職員会議で研修内容について報告し、知識の共有化を図っている。看護職員は毎月の勉強会でテーマを決めて研修を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) グループホーム協会主催の相互研修にも参加し、サービスの向上に努めている (外部評価) 管理者は県グループホーム連絡協議会の役員で、地域のホームのネットワークづくりのための連絡調整をしている。それぞれのホームの質向上のために職員間の研修が図れるようなシステムを検討している。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員の休憩所を少し離れた場所に設け、完全に仕事から離れ、気分転換できる環境を整えている		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 運営者は管理者と頻回に電話連絡を取ることで、職員の勤務状況や現場で起きていることの把握に努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 必ず本人と面会し、よく話を聞く機会を作るようにしている		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 十分な時間を確保し、本人や家族が困っていることをよく聞き当事業所として出来る限りの対応に努めている		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 他のサービス利用を含めた対応を本人や家族、担当ケアマネと話し合っている		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 徐々に施設に慣れてもらうよう配慮しているが、すぐ入居が決まった場合などは、家族に頻回に面会に来ていただくなど協力を頂いている (外部評価) 病院から入居の場合は病院に職員が出向き、医師や看護師から説明を受け、本人・家族と協議してからの入居となる。自宅からの場合は自宅を訪問して本人・家族と話し合っている。見学は随時受け入れており、昼食時に利用者と一緒に食事をして、雰囲気を味わってもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 理念に基づき、本人の思いに共感し、共に支えあえる関係作りに努めている (外部評価) 職員は利用者から昔の遊びやお手玉の作り方、台所用品のざるや木のまな板の使い方を教わったりしている。「できる人にできることをしていただく」という姿勢から利用者の能力を信頼しつつ、見守りとさりげない支援で利用者の意欲を引き出し、達成感を味わえるよう支援を行っている。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時や家族会などの機会に、利用者の近況報告をし、家族との協力関係が築けるよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 行事や日帰り旅行で一緒に過ごせる機会作りをしている		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 知人や友人への電話や年賀状で、継続的な関係が出来るよう勤めているが積極的に行えていない		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 職員が調整役となり支援できるよう努めている		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 他の事業所に移られた際でも家族からの相談には積極的に応じ、またいつでも遊びに来てくれるよう話している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 担当者を各入居者につけ、担当者は特に担当入居者の状況把握に努めている (外部評価) 入居時に利用者と家族から生活歴を聞き取っている。前回評価の改善により、生活歴を文章で記述できる欄を設けるなど工夫している。入居後も随時家族等から情報を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前に自宅に訪問し、本人や家族より情報集収行っているが不十分な所もある		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 生活リズムについては、事前に把握するように努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人や家族の要望は日頃から把握に努めるとともに、モニタリング・カンファレンスは職員全員で行い本人や家族の要望を出来るだけ反映させるようにしている (外部評価) 利用者や家族との会話の中から情報を収集し、計画に反映させ、利用者の担当職員を中心に全員で作成している。介護計画は家族に説明し、署名・捺印してもらっている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 原則3ヶ月で見直しを行っているが、状態変化があればその都度見直しを行うようにしている (外部評価) 3か月に1回介護計画を見直している。ホーム全体で月3回職員会議を行い、各ユニットごとに月1回会議を行っている。利用者に変化が見られたときは、その都度見直している。看護師同士もお互いの気づきを伝え、病状を確認し、他の職員へ介護方法を伝えている。	※	現在は比較的安定している利用者が多いが、開設4年目を迎え平均年齢も上がってきて変化が出やすくなることも考えられるため、よりきめの細かい1か月ごとの計画作成について検討することを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の食事量・水分量・入浴等チェック欄を設け把握に努めている。また日々の記録については職員間で質の差がある	※	介護記録については、勉強会を開くなど改善に努めたい
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 通院は原則家族をお願いしているが、家族の都合がつかないときは職員が付き添うなど臨機応変に対応している (外部評価) 買物、自宅への送迎など細かく対応している。通院は日常の利用者の様子がよくわかっている職員が付き添う場合もある。近隣の利用者が多いので家族の協力を得られることも多いが、管理者は利用者・家族とホーム職員相互の負担にならないよう配慮している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 民生委員さんやボランティアとのつながりを大切に考えており、絵手紙に月2回、毎月の誕生会でもマンドリンや紙芝居など多くのボランティアさんに来ていただいている		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 地域の行事には出来る限り参加するよう心がけている		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 地域包括センターとは随時、成年後見制度や福祉サービス利用援助事業について情報交換行っている		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人や家族の望むかかりつけ医となっている。受診は基本的に家族をお願いしているが必要時は看護婦が同行したり、家族が用事がある時などは職員が付き添っている (外部評価) かかりつけ医は利用者・家族の希望に沿っている。週2回歯科医の口腔チェックや義歯の調節などの往診がある。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 神経内科医とは連携を図り、服薬についても相談・助言をいただいている		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 常勤の看護師を4名配置しており、日頃の体調管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時は、看護婦やケアマネが情報提供に努め、出来るだけ安心した入院生活を送れるよう支援している		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 重度化した場合の対応については契約時、家族に説明している (外部評価) 「看取りに関する指針」を決め、家族へ説明している。緊急時の職員の行動や医療機関との連携についてもマニュアル化している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 重度化に伴う状態急変時には、すぐ診てもらえるよう医療機関と連携を図っている。特に医療を必要とする方のターミナルケアについては現在のところ当施設では考えていない		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 他の事業所や病院に移られる場合は、十分に情報交換を行うよう心がけている		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) スタッフ会などで職員の意識向上を図り、責任者が日々の職員のかかわり方や記録を把握するよう努めている (外部評価) 職員は食卓の向こう側の利用者にもそばに行って耳元で話しかけている。記録書類はユニット中央の事務室で一括管理している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 入居者がどうしたいかを見極めるとともに、細かなことでも本人が選ぶ場面を作るようにしている		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 入居者一人ひとりのペースを把握し、ゆったりした日常生活を送れるよう支援している (外部評価) 一日の流れは決まっているが、利用者の体調と気分に合わせて臨機応変に対応している。退院直後の利用者に、職員は「ベッドを起こしますよ、気分が悪くなったら言って下さいね」と丁寧に声かけしながら機械操作を行っている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 月に一度、美容師の訪問日を設けているが希望があれば本人の希望する美容院へ行けるよう支援している		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の嗜好を聞きバランスのとれた献立を考えており、職員も食を共にしている。また、当施設で採れた野菜も食材として使用している (外部評価) 食事を手伝う利用者は自分の割烹着を身につけ、準備、配膳、片付けを行っている。職員は利用者と同じテーブルに着き会話を楽しみながらさりげなく支援を行っている。利用者同士もお互いに気遣い、助け合う場面が見られた。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 煙草やお酒については強く希望する入居者はいないが、おやつ等に関しては個別で買い物に出かけるなどしている		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 各利用者に合わせて、定期的にトイレへの声かけ、誘導を行っている		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入居者の希望に沿って入浴の支援を行っている。また、入浴剤を使用するなど入浴を楽しんでもらっている (外部評価) 入浴は週6日(日曜以外)午後いつでも可能である。嫌がる利用者には相性のよい職員が介助に当たる場合が多い。利用者各人の「恥ずかしい」との思いを受け止めて、職員がプライバシーに配慮しながら支援している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 日中、ラジオ体操・散歩・レクリエーションなど適度な運動を取り入れ生活リズムを整えるよう努めている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 食事の準備や掃除、畑仕事など役割が持てるよう支援している。また絵手紙教室なども行い興味のある方には参加してもらっている (外部評価) 室内ではボランティアで講師を受け入れて趣味を楽しむ、日々の生活にアクセントをつけている。ユニット中央にリビングから出られる広いウッドデッキがあり、ラジオ体操をしたり、歌、踊りなど活動にも考慮している。野菜畑も職員、利用者が世話をし、季節感も味わえるよう工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族の協力を得てお小遣い程度のお金を所持している利用者もいるが、基本的には施設で管理している。外出時などは出来る限り利用者が支払いなど行えるよう支援している		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 天気の良い日は散歩に出かけ、買い物やドライブ等も計画し出かける機会を多く作るよう心がけている (外部評価) 利用者の要望に応じて日常の散歩や買い物、ユニットごとのドライブや外食に出かけている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 家族とも協力し、柔軟に対応している		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 各入居者の希望に応じて電話できるように支援している。また年賀状や暑中見舞いなども入居者に書いてもらっている		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 気軽に訪問し、居心地よく過ごして貰えるような雰囲気作りを心がけている。また訪問時は個室（各入居者自室）にて一緒にお茶を楽しんで貰えるよう配慮している		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束は行っていない。精神安定剤等の使用についても職員間、かかりつけ医と十分に相談している		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関の施錠は、夜間防犯目的以外行っていない (外部評価) 夜間は防犯のため施錠しているが、チャイムで玄関の開閉を把握し、日中鍵はかけていない。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中は各職員が見守り、全員の状況把握に努めている。また夜間は少なくとも二時間おきには巡回をおこなっている		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 入居者の状態に応じて、保管管理が必要な物品は管理を行っている		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 事故が発生した場合は、事故報告書を作成し、朝の申し送りやスタッフ会などで報告、予防対策を話し合っている		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 緊急時の対応については、職員会議等で看護職員より介護職員に口頭で伝えているが、応急手当の実技等を行っていない	※	今後実技を含めた勉強会についても検討していきたい
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 定期的に避難訓練等行い、災害に備えている (外部評価) ホームで年2回実施している災害訓練のうち1回は消防署との訓練、防災機器の点検等を行っている。隣接する施設と夜間緊急時の話し合いをしており、地震の時の避難場所として確保している。消防訓練時指摘された非常口前のソファは軽いイスに替え、観葉植物も移動させている。		
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 起こりうるリスクについては、契約時家族に説明している		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 看護師を常に配置し、状態変化には気を配っており状況に応じて速やかに家族や医療機関へ連絡を行うようにしている		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人のカルテに、薬の説明シートを閉じており、いつでも確認出来るようにしている。また重要な薬については看護師より職員に説明している		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 食事や散歩など、出来る限り薬に頼らない便秘予防を行っているが、必要時は看護師が排便を行うなど対応している		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 就寝前には義歯を預かり洗浄液につけておくなど、個々に応じた支援を行っている		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量や水分量は毎日記録し、職員間で情報を共有している (外部評価) 看護師が日々の献立の食事カロリーと栄養バランスを把握している。利用者の食事・水分摂取量は日々の介護日誌に記し、個人ファイルに転記している。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染予防のマニュアルを作成しており、内容については職員会議で看護師より介護職員に説明を行っている		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食材についてはなるべく買いだめしないようにしている。また台所まわりは常に清潔に保つよう心がけている		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関は明るい雰囲気になるように季節の花を活けるなど工夫している		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) フロア内には入居者の写真などを飾り、生け花・ひな壇・七夕飾り・クリスマスツリーを置くなど季節感を感じられるように配慮している (外部評価) 管理者はホームの建設時にアイデアを出し、利用者にとって生活しやすく、職員にとって動きやすい空間をつくっている。ホーム全体に開放感と清潔感がある。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) フロア内には畳みスペースを設けており、また、廊下やテラスに椅子を置き各入居者が思い思いに過ごせるようにしている		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人が以前使用していたタンスや道具、家族の写真を飾るなど居心地の良い空間作りを行っているが十分とは言えない (外部評価) 利用者は居室に思い思いの物を持ち込み、家族の写真を置いて置いている。ホームで習った絵手紙や習字を飾り、今までの生活とホームでの生活が溶けあった自分らしい落ち着いた居室ができ上がっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 換気を常に心がけ、フロア内には温度・湿度計を置き温度差に気をつけている。また定期的に空調の掃除を行っている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 入居者の状態に合わせて、介助バーの購入や手すりを後付けするなど暮らしやすい空間作りを行っている		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 自室やトイレが分からず混乱が見られる入居者には、ネームプレートや写真たてを飾るなど工夫している		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 日光浴を楽しめるようテラスにベンチを置くなど工夫している		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらいの 評価) ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない	基本的に何事においても入居者の希望を聞き、意向に沿えるよう努力している
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある (自己 ② 数日に1回程度ある 評価) ③ たまにある ④ ほとんどない	運営理念でもあるゆっくり、ゆったりを大切にしており、畳やソファにて会話を楽しむ時間も大切に考えている
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	起床時間や就寝時間などは決まっておらず、朝食が遅れる入居者さんも居られるが基本的に入居者さんのペースで支援を行っている
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	趣味や役割作りなどの支援行っているが、役割作りなどがうまくいかない入居者さんもあり十分とは言えない
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	行事への参加や外出支援も積極的に行っているが、日頃ちょっとした外出などは十分に対応できているとは言えない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	看護師を4名配置しており、健康管理は高い水準で行えている
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	職員数も十分に確保しており、要望に応じた柔軟な支援を行っている
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	① ほぼ全ての家族と (自己 ② 家族の2/3くらいと 評価) ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない	家族面会時などには積極的に情報交換を行い、信頼関係作りに努めているが全ての家族との信頼関係は構築できていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように (自己 ② 数日に1回程度 評価) ③ たまに ④ ほとんどない	家族さんはよく面会に来てくれている。また誕生会や絵手紙教室など、なじみのボランティアさんも訪問に訪ねてくれている

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会議に参加した民生委員さんが他の民生委員さんを紹介してくれるなど地元の関係者とのつながりが広がっている
98	職員は、生き活きと働けている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	ストレスの多い職業である為、疲れが見える職員がいることも事実であるが、働きやすい職場作りを管理者は心がけている
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	十分なサービスは行えていないという視点に常に立ち日々研鑽に努めたい
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) ③ 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	苦情等は聞かれないが、満足頂いてると過信せず日々サービスの向上に努めたい

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

各行事への参加など人数的な制限はあるが出来る限り外に出る機会を多く作っている。また日常生活では運営理念でもある「ゆっくり、ゆったり」を全職員は心がけ安心した生活が送れるよう日々努めている

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取り組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホームしおさい

(ユニット名) ユニット2

記入者(管理者)
氏名 加藤 博

評価完了日 平成 19 年 10 月 1 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) しおさいが目指すサービスのあり方について職員間で話し合い、独自の理念を作り上げている。 (外部評価) 利用者のほとんどが近隣の方であり、地域とのつながりは深い。管理者は「利用者もホームも地域の一員」との意識が強く、行事参加だけでなく日常的な交流にも努め、職員も実行している。	※	地域との関係は十分にできているが、さらなる取組みのため、地域とのつながりを明文化し、職員一人ひとりに意識づけすることを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 理念は、ホーム内に掲示しており職員会議等で常に確認し、日々のサービス提供時心がけている。 (外部評価) 職員全員で作った「その人らしくゆっくりゆったり安心した生活を送る、笑顔で過ごせる生活を送る」という理念をもとに、日々会話と笑顔の絶えないホームにしたいとの職員の想いが強い。利用者の笑い声と、緩やかな一日の行動のリズムがホーム全体の暖かい雰囲気を作っている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 家族には、面会時や家族会などで説明を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 日常的に散歩等の外出の機会を作り、地域との交流に努めている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 自治会や地域行事（文化祭等）にも参加し、地域との交流に努めている。 (外部評価) 自治会に所属して地域活動の情報を収集し、積極的に参加している。隣接の福祉施設の研修生を受け入れ、地元ボランティアの方にお手玉の作り方や昔遊びを教えたり、会話を楽しみながら地域の人々との交流を図っている。		
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 人材育成の貢献として実習生の受け入れを積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 外部評価の結果は、全体スタッフ会で報告し、改善に向けて全職員で検討している。 (外部評価) 管理者は評価の意義を理解し、職員に説明してから自己評価を行っている。前回評価の結果を職員会議で議題に取り上げている。改善方法を検討し、優先順位をつけて実施している。評価結果は運営推進会議で報告する予定である。	※	職員全員で話し合った具体的な解決方法や成果などを記録する「評価改善シート」を作成し、評価をホームの成長の過程として新しい目標づくりに役立てることを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、民生委員・自治会長・介護福祉課職員・家族会会長などできるだけ多くの方に参加していただき、そこでの意見を日頃のサービス向上に活かしている。 <hr/> (外部評価) 運営推進会議では利用者の様子や行事報告、職員の研修受講の報告などを行い、市担当者からは高齢者福祉の現状説明等をいただいている。家族からも質問や意見が出され、参加者全員でホームを支える話し合いができています。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 困難事例や検討事項など、介護保険更新時伺った際になどに相談や助言をいただいている。 <hr/> (外部評価) 市担当課に運営推進会議以外でも相談に応じてもらえる。管理者は利用者と共に窓口を訪れ、ホームの現状を説明し、理解を得る努力をしている。公民館主催の介護教室の食事会には職員が利用者と共に出席している。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者は、成年後見制度の研修に参加し知識を深めるとともに、職員に対しても、スタッフ会などで勉強会を行うなど制度の周知を図っている。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 管理者は、高齢者虐待防止法に関する研修に参加し、理解しているが事業所内で虐待が行われるケースは、想定していない。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、料金等に始まり、ケアについての考え方や退去を含めた当事業所の対応可能な範囲についても説明を行っている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 各利用者に担当職員をつけ特に担当職員は利用者の言葉や態度から不満を感じ取る努力をしている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 家族面会時には、職員が近況報告を行うとともに、介護計画など説明しサインをいただいている。 <hr/> (外部評価) 「ホーム便り」を年4回作成している。視点を変えるために作成担当メンバーを変えるなど工夫している。金銭出納帳のコピーや介護計画書も便りとあわせて家族へ郵送したり面会時に手渡して確実に届けている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会を設け、意見や不満などいただくようにしている。 <hr/> (外部評価) 家族会を年2回イベントと同時に行い、家族同士でも意見交換が行えるようにしている。苦情箱も設けられているが、家族からの要望は面会時に伝えてもらうことが多い。管理者は悪い情報ほど早く耳に入れるよう職員に伝えている。ホーム内行事は利用者、家族に好評だったものを継続して行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 運営者や管理者は、職員が意見を言いやすい環境作りを常に心掛けている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 利用者の生活リズムに合わせたローテーションを組んでいる。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 各ユニット職員は、原則固定化し、馴染みの職員から支援を受けられるようにしている。 (外部評価) 職員が異動になった場合、可能であれば1か月は新・旧の職員が重複して勤務している。そうでない場合は管理者が利用者の担当として勤務するなど、利用者、職員共にスムーズに馴染めるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 各職員レベルに合った研修に参加してもらっている。またスタッフ会で研修報告を行う機会を作っている。 (外部評価) 管理者は職員のケアの質の向上や情報交換には研修が重要であると考えており、研修受講や資格取得に協力的である。職員は業務として研修に参加し、職員会議で研修内容について報告し、知識の共有化を図っている。看護職員は毎月の勉強会でテーマを決めて研修を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) グループホーム協会主催の相互評価事業にも参加し、サービスの向上に努めている。 (外部評価) 管理者は県グループホーム連絡協議会の役員で、地域のホームのネットワークづくりのための連絡調整をしている。それぞれのホームの質向上のために職員間の研修が図れるようなシステムを検討している。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員の休憩所を少し離れた場所に設け、完全に仕事からはなれ気分転換できる環境を整えている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 運営者は管理者と頻回に電話連絡を取ることで、職員の勤務状況や現場で起きていることの把握に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 必ず本人と面会し、よく話を聞く機会を作るようにしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 十分な時間を確保し、本人や家族が困っていることをよく聞き当事業所として出来る限りの対応に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 他のサービス利用を含めた対応を、本人や家族、担当ケアマネと話し合っている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 徐々に施設に慣れてもらうよう配慮しているが、すぐ入居が決まった場合などは、家族に頻回に面会に来ていただくなど協力をいただいている。 (外部評価) 病院から入居の場合は病院に職員が出向き、医師や看護師から説明を受け、本人・家族と協議してからの入居となる。自宅からの場合は自宅を訪問して本人・家族と話し合っている。見学は随時受け入れており、昼食時に利用者と一緒に食事をして、雰囲気を味わってもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 一年を通しての昔ながらの習慣や、行事について学ぶ所は、大きく当時の話を楽しく聞かせてもらっている。 (外部評価) 職員は利用者から昔の遊びやお手玉の作り方、台所用品のざるや木のまな板の使い方を教わったりしている。「できる人にできることをしていただく」という姿勢から利用者の能力を信頼しつつ、見守りとさりげない支援で利用者の意欲を引き出し、達成感を味わえるよう支援を行っている。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族からの相談には、誠意を持って職員も共に考え、協力し対応をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 日帰り旅行や、季節毎の行事を計画し、家族との交流や関係を深めている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 主な面会は、家族や家族の関係者であるが、時折 昔の住まいの近所の方が来られる。 家族面会の場合は、外出もされており、好みの場所に行かれている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 仲良しメンバーが自然と出来ており楽しく過ごされている。 おやつ等でもテーブルを囲み楽しくされ時には、カラオケも聞かれています。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 2棟でのサービス利用終了者は、いない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 担当者を各入居者につけ、担当者は特に担当入居者の状況把握に努めている。 (外部評価) 入居時に利用者と家族から生活歴を聞き取っている。前回評価の改善により、生活歴を文章で記述できる欄を設けるなど工夫している。入居後も随時家族等から情報を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前に自宅に訪問し、本人や家族より情報集収を行っているが不十分な所もある。	※	家族や知人面会時、積極的に声をかけ新たな情報集収をしていきたい
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 生活リズムについては、事前に把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人や家族の要望は、日頃から把握に努めるとともに、モニタリング・カンファレンスは職員全員で行い本人や家族の希望を出来るだけ反映させるようにしている。 (外部評価) 利用者や家族との会話の中から情報を収集し、計画に反映させ、利用者の担当職員を中心に全員で作成している。介護計画は家族に説明し、署名・捺印してもらっている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 原則3ヶ月で見直しを行っているが、状態変化があればその都度見直しを行うようにしている。 (外部評価) 3か月に1回介護計画を見直している。ホーム全体で月3回職員会議を行い、各ユニットごとに月1回会議を行っている。利用者に変化が見られたときは、その都度見直している。看護師同士もお互いの気づきを伝え、病状を確認し、他の職員へ介護方法を伝えている。	※	現在は比較的安定している利用者が多いが、開設4年目を迎え平均年齢も上がってきて変化が出やすくなることも考えられるため、よりきめの細かい1か月ごとの計画作成について検討することを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の食事量・水分量・排泄・入浴等チェック欄を設け把握に努めている。また日々の暮らしの記録については、職員間で質の差がある。		介護記録については、勉強会を開くなど改善に努めたい
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 通院は原則家族をお願いしているが、家族の都合がつかない時は、職員が付き添うなど臨機応変に対応している。 (外部評価) 買物、自宅への送迎など細かく対応している。通院は日常の利用者の様子がよくわかっている職員が付き添う場合もある。近隣の利用者が多いので家族の協力を得られることも多いが、管理者は利用者・家族とホーム職員相互の負担にならないよう配慮している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 民生委員さんやボランティアとのつながりを大切に考えており、絵手紙に月2回、毎月の誕生会でもマンドリンや紙芝居など多くのボランティアさんに来ていただいている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 地域の行事には、出来る限り参加するように心がけている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 地域包括センターとは随時、成年後見制度や福祉サービス利用援助事業について情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人や家族の望むかかりつけ医となっている。受診は基本的に家族にお願いしているが必要時は看護師が同行したり、家族が用事があるときなどは、職員が付き添っている。 <hr/> (外部評価) かかりつけ医は利用者・家族の希望に沿っている。週2回歯科医の口腔チェックや義歯の調節などの往診がある。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 神経内科医とは連携を図り、薬等についても相談・助言をいただいている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 常勤の看護職員を4名配置しており、日頃の体調管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時は看護師やケアマネが情報提供に努め、できるだけ安心した入院生活を送れるよう支援している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 重度化した場合の対応については契約時、家族に説明している。 <hr/> (外部評価) 「看取りに関する指針」を決め、家族へ説明している。緊急時の職員の行動や医療機関との連携についてもマニュアル化している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 重度化に伴う状態急変時には、すぐ診てもらえるよう医療機関と連携を図っている。特に医療を必要とする方のターミナルケアについては現在のところ当施設では考えていない。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 他の事業所や病院に移られる場合は、十分に情報交換を行うよう心がけている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 援助等についても、本人に伝える事を基本とし、本人の了承の下に行っている。 その場合には、本人の尊厳と周囲へのプライバシーについても配慮している。 (外部評価) 職員は食卓の向こう側の利用者にもそばに行って耳元で話しかけている。記録書類はユニット中央の事務室で一括管理している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) おやつ等での飲み物については、入居者の希望を聞いたり、買い物に出た時も本人の考えを大切に尊重する様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ホームでの一日の生活パターンは、決まっているものの、各入居者の出来る範囲での役割を持って頂き、メリハリのある充実した生活を送っていただけるよう努めている。 (外部評価) 一日の流れは決まっているが、利用者の体調と気分に合わせて臨機応変に対応している。退院直後の利用者に、職員は「ベッドを起こしますよ、気分が悪くなったら言って下さいね」と丁寧に声かけしながら機械操作を行っている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 入居者によっては、行き付けの美容院に行かれる方、家族さん自身でカットされる方等ご自分の希望は、活かされている。また、自立されている人は、服装も自由に着こなされ、化粧も楽しまれています。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) その時々メニューの下ごしらえを皆さんにして頂き、出来上がった料理を食べながら会話も弾んでいる。後片付けも役割分担が出来ており、協力しながら進んでいる。 (外部評価) 食事を手伝う利用者は自分の割烹着を身に着け、準備、配膳、片付けを行っている。職員は利用者と同じテーブルに着き会話を楽しみながらさりげなく支援を行っている。利用者同士もお互いに気遣い、助け合う場面が見られた。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 酒・タバコをされる入居者はいないが、本人の申し出があれば、買い物にも出かけて行き、気分転換も同時に図っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) オムツの使用はなく、表情やしぐさ等での随時のトイレ誘導や、定時のトイレ誘導の実施、夜間での排泄パターンの把握に努めており、大体うまく出来ている。 パット・紙パンツの夜間使用者あり。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 週に3回の入浴日を設けているが、その日の体調や、外出者については、適時入浴をしていただいている。 入浴にかかる時間も本人の自由で、皆さんとても楽しまれている。 (外部評価) 入浴は週6日(日曜以外)午後いつでも可能である。嫌がる利用者には相性のよい職員が介助に当たる場合が多い。利用者各人の「恥ずかしい」との思いを受け止めて、職員がプライバシーに配慮しながら支援している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 昼夜逆転のひどい方はいませんが、ウトウトされる入居者については、声掛けをして自由な時間に居室に戻られて休まれています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 調理前の下ごしらえ、食後の後片付けは、自立されている方が見守りの中で、進んでこなされている。 (外部評価) 室内ではボランティアで講師を受け入れて趣味を楽しむ、日々の生活にアクセントをつけている。ユニット中央にリビングから出られる広いウッドデッキがあり、ラジオ体操をしたり、歌、踊りなど活動にも考慮している。野菜畑も職員、利用者が世話をし、季節感も味わえるよう工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭管理は、施設が行っているが、本人の希望があれば、その都度手渡して自由に使っていただいています。また、外出時にもご自由に使っていただいている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 散歩コースがあり、天候のよい日には、皆さんで歩かれています。途中で体操や歌をうたったりして楽しまれている。 また、ドライブにて気分転換もされている。 (外部評価) 利用者の要望に応じて日常の散歩や買い物、ユニットごとのドライブや外食に出かけている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 日帰り旅行を毎年実施しており、家族も参加され、楽しい一日を過ごしていただいています。 お花見や、梅狩り・イチゴ狩りも行事に取り入れています。 年に一度の誕生日には、本人の希望を聞いて出来るだけ実現する様に努めている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人からの申し出がある時には、手配をしている。また、年賀状等、家族宛に出されています。(代筆あり)		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 時間に関係なくどの時間帯でも面会に来ていただき、ご自由に寛いだ時間を過ごして貰えるように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束は行っていない。精神安定剤等の使用についても職員間、かかりつけ医と十分に相談している。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関の施錠は、夜間防犯目的以外行っていない。 (外部評価) 夜間は防犯のため施錠しているが、チャイムで玄関の開閉を把握し、日中鍵はかけていない。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 居室への立ち入りも、許しを得て入室し、知られたくない事態についても、本人の羞恥心を配慮して実施。夜間の巡回も2時間毎を基本とし随時実施している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 各入居者に対して、相応の見方をしていると共に、こんな場合には、こんな危険があると言った内容のお話を、温かくさせていただいています。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) スタッフ会での勉強会、消防署からの防火訓練は、定期的の実施・指導を受けている。 ヒアリ・ハット、事故についても、今後の対応について協議している。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 緊急時の対応については、職員会議等で看護職員より介護職員に口頭で伝えているが、応急手当の実技等を行っていない。		今後実技を含めた勉強会についても検討していきたい
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 定期的に避難訓練等行い、災害に備えている。 (外部評価) ホームで年2回実施している災害訓練のうち1回は消防署との訓練、防災機器の点検等を行っている。隣接する施設と夜間緊急時の話し合いをしており、地震の時の避難場所として確保している。消防訓練時指摘された非常口前のソファは軽いイスに替え、観葉植物も移動させている。		
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 起こりうるリスクについては、契約時家族に説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 日常的にBD・検温、月に一度の体重測定により、身体状況の把握に努めている。また、連絡ノートでの職員間の意識統一にも努めている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人のカルテに、薬の説明シートを閉じており、いつでも確認出来るようにしている。また、重要な薬については、看護師より職員に説明している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 食事や散歩など、出来る限り薬に頼らない便秘予防を行っているが、必要時は看護師が排便を行うなど対応している。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 就寝前には、義歯を預り洗浄液につけておくなど、個々に応じた支援を行っている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量や水分量は毎日記録し、職員間で情報を共有している。 (外部評価) 看護師が日々の献立の食事カロリーと栄養バランスを把握している。利用者の食事・水分摂取量は日々の介護日誌に記し、個人ファイルに転記している。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染予防のマニュアルを作成しており、内容については職員会議で看護師より介護職員に説明を行っている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食材については、なるべく買いためしないようにしている。 また、台所まわりは、常に清潔に保つよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関は明るい雰囲気になるように季節の花を活けるなど工夫している。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節折々の置物や飾り物を、入居者の皆さんと実施している。 (外部評価) 管理者はホームの建設時にアイデアを出し、利用者にとって生活しやすく、職員にとって動きやすい空間をつくっている。ホーム全体に開放感と清潔感がある。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 仲よし同士の入居者の方の居室への出入り、ホールやテラスに設けられたベンチは、皆さん自由に使用され、好みの場所にてコミュニケーションが図られている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居者から希望の品についても申し出があれば、家族に連絡し持参していただき自由に使用してもらっている。 (外部評価) 利用者は居室に思い思いの物を持ち込み、家族の写真を置いておく。ホームで習った絵手紙や習字を飾り、今までの生活とホームでの生活が溶けあった自分らしい落ち着いた居室ができ上がっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) ホール・台所・居室・トイレ等、換気装置が装備されており、都度使用している。 温度管理についても入居者の方々に伺って細かく調節している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 通路・トイレ・風呂場には手すりがあり、なるべく自立歩行を大切にしているが、特別な場合には、車椅子も用意されている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 積極的に行動される入居者は、その日の体調を見て温かい見守りと声かけにて、出来ることを出来る範囲で頑張っています。		
87		○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 日光浴を楽しめるようテラスにベンチを置くなど工夫している。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	日頃より会話を大切にしており、その中から入居者の皆さんの思い・意向を把握している。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	天気の良い日は、散歩を楽しみテラスのベンチに腰掛けて外気欲をされています。また、おやつ・食事の時間にもテーブルを囲んで話し合う状況があります。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	出来るだけ入居者の行動のペースに合った一日を過ごされている。強要や無理強いのない、ゆっくり・ゆったりとした生活を心掛けている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	入居者の話しをよく聞き入れる事、よく話しかける事で、一緒に喜び一緒に笑う事が出来ています。また、色々な行事についても家族さんに喜ばれています。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	希望のある入居者については、買い物にも行ってもらっている。また、ドライブ等でも気分転換を図られています。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	看護師が常勤で居るため、適切な対応と処置が出来る。 家族にもすぐ連絡が取れるようになっており、受診の際にも協力してもらえます。夜間での急変者には、救急への連絡。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	全体的に入居者の状況や要望に対しては、スタッフ会等で協議して対応し、カンファレンスにも取り入れている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ほぼ全ての家族と (自己 ② 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	家族の心配や不安は、入居者の健康に関する事が多く、面会によく来られる家族には、その都度説明している。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) ③ たまに 4 ほとんどない	ボランティアの方々が、定期的に来られたり、こちらからの要請で来ていただいています。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	各ボランティアへの呼びかけや、地域事業への参加で、少しずつであるが増えていると考える。
98	職員は、生き生きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	ストレスを抱えている職員もいるが、休日を利用しリフレッシュするよう心がけている
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	皆さん、とても満足気な表情・笑顔で答えて下さいますが、不穏時での対応には、一種独特の反応があります。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	苦情箱等への申し出もなく、面会に来られた時のクレームも出ていない。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

(意欲を引き出す支援・意欲を持続させる支援)

入居者の一人 ひとりを観察すると、ADL等の状態は、皆さん違っており、日常生活を営むための体力も一人 ひとり違いがある。性格的なものもあり、一概には、言えないが「やってやろう」と言った意欲の見える入居者の方には、その作業の内容や入居者の健康状態等を考慮し見守りと温かい声かけの環境の中で、自由に行動してもらっている。また、自発的な行動が出来にくい入居者の方にも、出来るだけ残存能力を使っていただくためにも、職員の温かい声かけ誘導にて簡単な作業をしていただき、意欲を引き出すように努めている。
(無理強いのないように)

(生活の中に笑える雰囲気を提供する)

世間話し、最近の日常的话题を、偏りのないように、全ての入居者の方に笑顔で話しかけ、入居者からの話かけにも笑顔で聞き入れ、一緒に喜び・一緒に笑って、笑顔の絶えないように生活のリズムに取り入れている。
この事により ”くつろぎの場”が出来て自室に戻られる入居者の方は、あまり見当たらない。